

2 中高連携英語力向上 第2年次の歩み

(1) 下呂市立萩原南中学校における実践

<授業実践>

①授業実践に向けての構え

昨年度の中高連携の取り組みを通して、中学校は「聞くこと」「話すこと」に重点をおき指導してきたが、高等学校では「読むこと」「書くこと」に重点をおいて指導されているという違いに気付くことができた。どちらが大切かという問題に固執するのではなく、お互いの学習指導要領を理解し合った上で、両者が共通の重点をもって取り組んでいかなければならないという考えから、中学校も高等学校も「話すこと」を中心として授業公開や研究を進めることとした。

「話すこと」といっても、中学校や高校のレベル差があるので願う姿は違うが、基本パターンの会話を自分なりにアレンジしたり、自分でスピーチ原稿を作ったりして、その原稿を見ないで、相手を意識してスラスラと話せるようにさせたい。

また、「ケンブリッジ英検や高等学校から求められている『読むこと』『書くこと』について、さらに『正確さ』『適切さ』を考えて指導していく必要がある」という課題も念頭におく必要があると考えた。

②第1回授業交流研究会

【日時】 平成16年6月3日(木)

【公開授業1】

- ・ 単元名 Unit 2 Yumi Goes Abroad (New Horizon 2)
- ・ 授業学校・学級 下呂市立萩原南中学校 2年A組
- ・ 主な授業内容

「話すこと」(イ)「自分の考えや気持ちなどが聞き手に正しく伝わるように話すこと」を指導事項の中心とし、「大切な語に強勢をおいたり、大切な語をゆっくり言ったりして話す力」が身につくような授業を仕組んだ。「係員と旅行者になって空港での対話をする」という言語活動を設定し、滞在期間や入国の目的などが相手によく分かるよう、強勢や速さに気を付けて話せるようになることをねらいとした。授業を2時間扱いとし、第1時で内容把握、単語の発音や音読練習を行い、第2時(本時)で対話活動を行った。1時間を大きく3つに分け、課題までの導入の時間、隣同士での活動1、任意のペアによる活動2として行った。活動1と活動2の間にアドバイスの時間を設定し、活動1を高めた上での活動2として位置付けた。

【公開授業2】

- ・ 単元名 Multi Plus 2 修学旅行 (New Horizon 3)
- ・ 授業学校・学級 下呂市立萩原南中学校 3年C組
- ・ 主な授業内容

「話すこと」(エ)「つなぎ言葉を用いるなどいろいろな工夫をして、話が続くようにすること」を指導事項の中心とし、「相手の話に対して、Really?, Oh, did you?などと反応し、相手からさらに話を引き出す力」が身に付くよう指導した。「修学旅行で行ったディズニーランドの様子や、強く印象に残ったことについて、修学旅行に行かなかったJTEやALTと対話する」という言語活動を設定し、対話の中で、JTE役の生徒やALT役の生徒が相手から修学旅行の話をどんどん引き出していけるよう授業を仕組んだ。前時までの4時間で修学旅行の話題に必要な表現を習得し、思い出深いディズニーランドでの体験を話題にして対話を進めることができるように意図した。公開授業1の授業パターンと同様に、活動を2つに分け、さらに高まるように位置付けた。

【授業研究会】

- ・生徒が明るく元気よく活動し、意欲的であった。
- ・中学校では教科書で活動を仕組んでいる点が印象的である。
- ・学力差のある生徒を全員活躍させているところがすばらしい。
- ・話すことと音読の違いをはっきりとさせる必要がある。できるだけ、学習プリントを見ないで話せるための工夫が必要である。
- ・アドバイス活動はよいが、アドバイスに夢中になりすぎて、ねらいがあいまいになってしまった。
- ・中学校での **Writing** の指導をどのようにしているのか知りたい。
- ・現在の高校生でも言えることだが、リスニングの力が優れている。ポイントをつかみながら聞き取ることができる。

③第2回授業交流研究会

【日時】 平成16年11月4日（木）

【公開授業1】

- ・単元名 **Speaking Plus 3 道案内** (New Horizon 3)
- ・授業学校・学級 下呂市立萩原南中学校 3年A組
- ・主な授業内容

「話すこと」(イ)「自分の考えや気持ちなどが聞き手に正しく伝わるように話すことを指導事項の中心とし、「伝えたいことを整理して順序立てて話す力」が身に付くような授業を仕組んだ。「名古屋の地下鉄路線図を使い、目的地までの行き方を説明する」という言語活動を設定し、その中で、「指定された場所への電車に乗り、どこで乗り換えたらよいかを順序立てて整理して話すことができる」ということをねらいとして指導した。「道案内」の表現は1年生ではバスの乗り方、2年生では地図を使って指定された場所への道順の教え方、3年生では電車の乗り方・乗り換え方とすべての学年に入っている。その流れを生徒に説明しながら2時間扱いで指導した。第1時で基本表現を理解させ、第2時で実際の名古屋の地下鉄路線図を使って対話活動を行った。

【公開授業2】

- ・単元名 **Multi Plus 3 留守番電話と伝言** (New Horizon 3)
- ・授業学校・学級 下呂市立萩原南中学校 3年C組
- ・主な授業内容

「話すこと」(イ)「自分の考えや気持ちなどが聞き手に正しく伝わるように話すことを指導事項の中心とし、「伝えたいことを整理して相手に正しく伝わるように話すことができる力」が身に付くよう指導した。「電話での伝言」という活動の中で、自分の予定について伝えたり確認したりするための表現が分かり、伝えたいことを整理して聞き手に正しく伝えられるようになることをねらった。「電話」の表現も1年生では基本的な電話での会話表現、2年生では電話で相手を誘ったり、約束したりする表現、3年生では電話の取次ぎをする表現を学習する。ここでは1・2年の復習をかねて、教科書の表現を膨らませて生徒に指導した。

【授業研究会】

- ・教師側の指示が明確で、生徒にとって分かりやすいものであった。
- ・生徒の活動の時間が長く、生徒が満足して、充実していたようだった。
- ・ポイントとなる3つの表現が定着しており、習熟度が高かった。
- ・生徒と先生が信頼関係で結ばれており、生徒が前向きな姿勢で取り組める。
- ・個人練習で自信のついた生徒が、すぐにペアで試したいという気持ちが出ていた。
- ・話したことを最後にまとめていく活動を取り入れていくと書く力の育成につながる。
- ・生徒自身が課題をもち、主体的に取り組む姿を目指していきたい。
- ・生徒の満足度や充実度はねらいと評価の整合性に関わる。

<グローバル・スタンダードによる英語力分析調査>

※ケンブリッジ英検ヤングラーナーズ 8月13日(金)実施

※受検者 スターターズ20名(1年生6名, 2年生14名)

ムーバーズ 13名(2年生6名, 3年生7名)

フライヤーズ 4名(2年生1名, 3年生3名)

- ・スターターズでは **Reading, Writing** がやや評価が低かったが, **Listening, Speaking** は高い評価を得た。ムーバーズやフライヤーズでは **Speaking** は高い評価を得たが, **Reading, Writing, Listening** の評価が低かった。
- ・日頃の授業で **Listening** や **Speaking** を重点的に指導している成果が出ていると言える。ムーバーズやフライヤーズの **Listening** の問題は難しかったという生徒の声があったので, 学年によって聞かせる英語の速さや量を工夫し, 授業の中で発展的に指導していきたい。
- ・1年生にとって, **Reading** や **Writing** の評価が低いことは, この時期仕方がないことかもしれないが, 何らかの形で対応していきたい。2・3年生については, 授業の中で今までよりも書く場面を多くしたり, 「読むこと」でも, 概略だけでなく, キーセンテンスに留意して読み取らせたりするなどの指導をしてきたが, まだまだ弱さがあると感じた。

<学習環境の充実>

以下の教材等を選択英語の授業等で活用することで, 英語使用への意欲化を図ることができた。

- ・「日本の文化を世界に伝える英文書」, 「とっさのひとこと」, 英語教材ソフト, 英語の歌のCDを購入し, 活用を図った。
- ・「日本の文化を世界に伝える英文書」ではアメリカやヨーロッパと日本との文化的違いを取り上げながら, 日本特有のものを英語で言い表す方法を指導した。
- ・「とっさのひとこと」では, 日常的な何気ない会話でも英語では違う印象を生徒はもっていた。海外旅行などで活用できそうである。
- ・英語教材ソフトは, 今まで指導してきたことを違った方法で補充的に学習できる方法が示されており, 大いに参考になった。

<成果と課題>

成果・「話すこと」という観点に絞ることにより, 中学校と高等学校という校種や生徒の発達段階の違いはあるが, お互いに参考になる研究会となった。

- ・中学校での「話すこと」を中心とした授業が高校生になっても生きていることが, 授業での高校生の姿や高校の先生方からの話で分かった。
- ・「英語を聞くときに, ポイントをとらえて内容を理解しようとしている」という高校生の様子を高校の先生方から聞いて, **Listening** に関して, 中学校の授業で意識して指導していることが高等学校でも役に立っていることが分かった。
- ・以前は高校の英語指導についての認識があまりなかったが, 2年間にわたって中高連携で研究を進めてきたことにより, 高校についての理解を深めることができた。また, そのことによって, 6年間のスパンの中で中学校としてやるべきことが明確になり, 授業においても, 高校や将来に役に立つことを念頭において指導するようになってきた。

課題・中学校ではどんな活動を仕組むときでも生徒にとって無理のないステップを考えるが, 時には, あえて挑戦させることも必要である。

- ・授業では, 生徒が楽しめること, 活動量の保障, 生活に根付いた題材設定からくる自己表現が大切である。
 - ・「書くこと」「読み取ること」「語彙力」の弱さを高等学校から指摘された。音声重視を中心にすえながらも, 「書くこと」「読むこと」「語彙の獲得」にあらためて目を向けたい。
- 今後・中高連携によって明らかになったことをもとに, 指導計画を作成・改善していきたい。
- ・中学校で願う生徒像と高等学校で願う生徒像を共有し合い, 共通の重点をもって生徒を育成し, 意見を言い合える関係を今後も継続していきたい。

